



Title	第4号発刊にあたって
Author(s)	片山, 剛
Citation	近代東アジア土地調査事業研究ニュースレター. 2009, 4
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/27025">https://hdl.handle.net/11094/27025</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

## 第4号発刊にあたって

本ニュースレターは、科研課題「1930年代広東省土地調査冊の整理・分析と活用」の開始年度に発刊を始め、これが4冊目となります。ページ数は、PPT原稿をそのまま印刷に付したものもあり、単純な量でいうと、圧巻であった第2号に迫るものになりましたが、内容的にも、科研最終年度にふさわしいラインナップになったと思っております。

ワークショップでは、ここ数年お世話になっている台湾の若い技術者・研究者に講演・コメントをしていただき、大きな刺激をえていただきました。3年連続コメンテータの小島さん、思慮深いコメントの江夏先生に加え、今回は「昔の若手」の田島さんが、「今の若手」の松村さんを連れて、1949年以降の中国大陸という、本科研がカバーしていない領域について、要領のよい整理と問題点を提示してくださいました。科研期間の間に3回のワークショップを開催しましたが、そのメリットである、古い仲間との再会、新たな仲間との出会いを通じて、新たな研究への意欲とヒントを頂戴しました。各年度のワークショップに参加された方々に改めて感謝を申し上げます。

さて、上記課題は、「田畠調査冊」について「整理・分析と活用」をすることになります。2009年1月に「田畠調査冊の活用」のために、荒武達朗さんと一緒に、短期間ですが広東省高要市金利鎮調査を行いました。そして、これまで私が行った農村実地調査のなかでも、最も成果をあげることができたもののひとつになりました。詳細は「2009年高要市金利鎮調査記録」をお読みいただきたいと思いますが、「村」と土地・水面との関係について、従来ほとんど照明が当てられていなかった世界を掘り起こすことができたように思います。「文字の国」の中国ですが、文字資料をジックリ読み込むおもしろさとともに、実地調査でなくては開拓できない世界が、まだまだ残っていることに改めて思い至った次第です。

科研メンバーの方々からは、的確かつパワフルな支援と、有能で迅速な対応をしていただきました。おかげさまで、おもしろそうな材料を手際よく調理し、ワークショップやニュースレターの場で、おいしい「発表」と「論文」にしていただきました。とりわけ特任研究員の大坪慶之氏には、例年のことながら、海外調査の整理、ワークショップの運営、ニュースレターの原稿執筆および編集作業の各場面で大活躍してもらいました。その労に、この場をかりて感謝申しあげます。

なお、本科研の成果としては、本号掲載分以外にも、連携研究者・荒武達朗氏が監修した「翻訳と紹介：單維廉（シュラーマイエル）『ドイツ領膠州湾（青島）の地政資料』（二）」（人間社会文化研究（徳島大学総合科学部）16, 2009年, pp.53-93）、等があります。

最後に一言。本課題の延長戦が始まりましたら、またよろしくお願ひします。

2009年3月  
研究代表者 片山 剛